

わがチラ裏ブログより転載

<https://www.ma-2.com/blog1/>

ふちんかん

この連載 6 2 回目

「ひょうご夏の体験デジタルパス」の旅

表題のチケットを使って3日間の旅をした。まずこのチケットの素晴らしい点を上げる。「ひょうご」を冠しているが、東は三重県・柘植、京都府・東舞鶴、西は岡山県・東岡山、南は奈良県・高田までと、範囲が実に2府5県に広がっている。これだけでも3日間乗り放題ならお得な切符である。例えば大阪駅から城崎温泉駅まで往復するだけでも6080円なので、元が取れてしまう。



次にJR線以外の交通機関であるが、目立つのは全但バスの観光バス「たじまわる」に乗れること。これはテーマに沿った観光地を回るバスである。土日運行なので週末に合わせる必要があるがこれが乗り放題である。さらに神戸市内の2種類のループバスも乗り放題。神戸三宮から有馬温泉までの往復チケットも一度のみだが無料である。

最後に観光施設である。リニューアルした須磨シーワールド（3100円）、姫路城（1000円）、神戸ポートタワー（1000円）、神戸クルーズ船（1800円）などが無料。3日あれば余裕で全部回ることができる。これだけで…6900円。

このチケットを使わない手はない。

さて、このように魅力的なチケットであるが、乗り鉄にはそれ以外の[仕様]に注目が集まっている。それは、このチケットには「JRの範囲内乗り放題チケット」に該当する部分がついておらず、JR区間は個別にICOCAで乗車することになっている。つまり乗車するたびにICOCA残高がいったん消費されるのだ。しかし、その分が後ほどWESTERポイントで返却されるという[仕様]になっている。そういえば[ICOCAでGO]という冠も付いている。

このICOCA残高を利用した分だけWESTERポイント【基本】に変換できるということが耳目を集めているのである。なぜかというWESTERポイントというのは、乗車券や特急券などのJR西日本の鉄道利用やWESTERカードの使用してのお買い物などを中心に貯めていくポイントであり、現金やクレカから課金できるものではないからだ。ポイント制度を利用するサービスは、普通はそんなことをする必要はないだろう。たと

えばヨドバシポイントが欲しいからといって現金をチャージしてポイントに変換するなんてナンセンスである（逆はあり得るが）。

しかしWESTERポイントは特別なのである。ポイントに価値がある。なぜかというWESTERポイントでしか買えない旅行商品というものがあるからなのだ。その中でも乗り鉄が超注目するのが、この夏に発売された「WESTERポイント全線フリーパス」である。これはJR西の全線、新幹線・特急の指定席を含め3日間乗り放題という魅力的な商品である。必要となるWESTERポイントは9000ポイント。このポイントをICOCA乗車で貯めるには9万円分の乗車が、WESTERカードの買い物で貯めるようにすると100万円の買い物が必要となる。

それが「ひょうご体験デジタルパス」の使用期間中に範囲内のJRにICOCAを使って乗るだけで、乗った分だけWESTERポイントに変わっていくのである。これが「全線フリーパス」狙いの乗り鉄道に注目されている理由である。私も7月の頭に「全線フリーパス」のニュースを見て、その内容に一瞬小躍りしたものの、ICOCAすら持っていない私がWESTERポイントなどあるわけがなく、速攻諦めていたものである。しかし、それがこの「ひょうご体験デジタルパス」の存在で一気に蘇った。3日もあれば9000円くらい余裕で乗れる！つまり「ひょうご体験デジタルパス」で旅行を楽しみつつ、その過程でWESTERポイントを9000ポイントためるといって、一挙両得作戦を取ることができるのである。

WESTERポイントのメリット説明が長くなってしまった。このメリットがなくても、この夏の旅行は「ひょうご体験デジタルパス」を使ったものとなっていたらと思うが、9000WESTERポイントをためる行程も含まれているということを知っておいて欲しかったので長々と説明させてもらった。

1日目 自宅～和田山～全但バス

1日目は7月末の日曜日。週末にしか運行のない全但バスの「たじまわる」に乗車する。「たじまわる」はテーマに沿ったバス停を半日かけ来て巡るツアーバスである。今回は「鉱石の道」号という魅力的なテーマに惹かれて乗車を決めた。但馬地域の生野銀山／神子畑精錬所／明延(錫)鉱山などを巡る旅である。



続きは[ブログ](#)にて

第62回おわり